

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長メッセージ	1
3 委員の辞任	5
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	6
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	7
3 機能別委員会の開催とその議題	7
4 分野別委員会の開催とその議題	7
5 課題別委員会の開催とその議題	12
6 若手アカデミーの開催とその議題	12
7 サイエンスカフェの開催	13
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	13
9 慶弔	13

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月10日(金)	総合科学技術・イノベーション会議本会議	大西会長
4月16日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
4月16日(木)	総合科学技術・イノベーション会議第6回基本計画専門調査会	大西会長
4月21日(火)	国際光年記念シンポジウム(東京大学)	大西会長
4月23日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
4月23日(木)	総合科学技術・イノベーション会議第7回基本計画専門調査会	大西会長
4月23日(木)	2015年(第31回)日本国際賞授賞式(東京国際フォーラム)・祝宴(パレスホテル東京)	大西会長(祝宴のみ)、花木副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 会長メッセージ

会長メッセージ「日本学術会議第22期3年目(平成25年10月～平成26年9月)の活動に関する評価」におけるご指摘事項に対する考え方について

4月9日～11日に開催された日本学術会議第169回総会では、科学と社会委員会年次報告等検討分科会の井野瀬久美恵委員長から、日本学術会議第22期3年目(平成25年10月～平成26年9月)における日本学術会議の活動状況に関する評価(以下「外部評価」という。)¹について、ご報告いただきました。

外部評価は、日本学術会議の元会長でもある吉川弘之幹事をはじめとする6人の外部評価委員の皆様に、日本学術会議の活動状況についてご議論いただき、その内容をまとめたものです。

外部評価では、日本学術会議の活動に関し、中長期的な課題も含め、重要なご指摘をいただきました。ご指摘のあった以下の点について、私の考え方と決意をお伝えします。

¹ 外部評価は、平成15年2月の総合科学技術会議意見具申「日本学術会議の在り方について」において、「日本学術会議の活動状況や運営について内外の有識者により外部評価を行う仕組みを導入することが考えられる」とされたことを踏まえ、第20期以降実施している。

過去の外部評価書：http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/nenji/nenji_hyoka.html

(1) 「組織の記憶」と「新世代参入」の両立について

【ご指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議が科学と社会の接点としての機能を果たしていく上では、1949年に設立されて以降、様々な環境に置かれながらも、日本の社会の中で存在し続けることができた意義や経緯といった、「組織の記憶」を保持し続けることは極めて重要なことであり、そのための仕組みを整えることが必要である。組織というものとは時代によって変わることは当然であるが、一貫性がなければ、信頼を得ることはできない。平成17年の改革により、会員の任期が3年3回から連続6年になったことにより、経験会員と新会員の対話の機会は2期以上から1期限り（最低）へと半分以下になった（会員として「福島」を経験した会員はわずか4年後の今、いなくなった）。これは組織の常識からいって深刻であり、法改正によって元に戻すか、それが困難であれば連携会員の立場を変えるなど、あらゆる工夫によって経験会員と新会員との対話の機会を倍増するように努力するべきである。一方で、日本学術会議自身の持続可能性の観点から、平成26年10月に設置された「若手アカデミー」の活動等を通じて新世代の参入を促進することも不可欠であり、組織全体として、いかに両者のバランスを図っていくかが重要である。

【ご指摘事項についての考え方】

ご指摘いただいたとおり、社会からの信頼を得る上で、組織としての一貫性を保つことは大変重要です。特に、日本学術会議が外部に向けて見解を述べることを主要な役割とする組織であることから、時代による変化はありつつも、その主張に一貫性や整合性を保つことが、必要だと考えています。このため、「日本学術会議の運営に関する内規」（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）²及び「部、課題別委員会及び幹事会の附置委員会による勧告・要望・声明・提言・報告の作成手続きに関するガイドライン」（平成19年5月24日日本学術会議第38回幹事会決定）³においては、部、課題別委員会、幹事会の附置委員会の長が提言等を作成する際、その草案の査読において過去10年間に日本学術会議が公表した提言等との関連性について助言を得るべきことを規定しており、これらの規程を踏まえて昨年5月30日に公表した会長メッセージ「提言等の円滑な審議のために」⁴では、提言等の作成上のポイントとして、日本学術会議の既出の提言等との関係に留意することを求めています。もちろん、このことは、過去の主張を踏襲することに固執することを意味しているのではなく、もしこれまでの主張と異なる見解を示す場合には、説明責任を果たすことが求められていると理解しています。

² <http://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/07.pdf>

³ <http://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/54.pdf>

⁴ <http://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/140430.pdf>

一方、組織面に関しては、平成 17 年改革において、組織としての刷新性と継続性のバランスを図る観点から、会員の任期を 6 年（再任不可）とするとともに定年制を導入し、一方で半数（105 名）ずつの改選にしたという経緯があります。この新たな制度は、過渡的な措置（半数改選への移行のため、例外的に、平成 17 年 10 月任命の新会員の半数を 3 年任期・再任可とした）を経て、昨年 10 月から本格始動したところであり、引き続き、運用面での工夫を行いつつ、改革の成果を発揮できるよう努力を重ねるべきだと考えています。新制度は刷新性を重視して設けられたといえますが、一方で、会員を務められた先生方に連携会員としてご活躍いただくことに加え、名誉会員や新たに設けた会長アドバイザーなどの制度を活用し、元会員・連携会員の先生方を含めた方々にご助言をいただくことによって、活動や主張の継続性を保つことが可能となっています。

また、若手の登用に関しては、昨年 10 月に設置された「若手アカデミー」の活動を活性化していくためにも重要であり、引き続き、その発展に注力していきたいと考えています。

（2）提言等のあり方について

【ご指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議の発出した提言等の多くは、その分野の専門家以外の者には、読んでも意義がすぐ理解できないような内容になっている。例えば、キャッチフレーズのようなわかりやすい副題をつける、executive summary をつくる等の工夫をして、真に社会に伝わりやすいメッセージになるように努めるべきである。また、常に社会に対する鋭敏なセンサーを持ち、社会が科学的知見を求めている課題を取り上げ、政策決定者や社会の様々なアクターに役立つ提言を出すべきである。

【ご指摘事項についての考え方】

提言等をより伝わりやすいものにすることは、かねてからの課題であり、前述の会長メッセージ「提言等の円滑な審議のために」では、提言等の作成上のポイントとして、本文を最大 20 ページを標準として適切な小見出しをつける等により読みやすくする工夫を行うべきこと、2 ページ程度の簡にして要を得た要旨を作成すべきこと等を挙げています。この会長メッセージは、発出した際に会員・連携会員にメールで伝達したほか、ホームページにも掲載しています。さらに、提言等の作成や査読に関わる会員・連携会員にこれらの点を意識してチェックしていただけるような仕組みも新たに導入しています。ただ、今回御指摘いただいたように、まだ十分とは言えない状況ですので、組織全体で十分に徹底されるよう、引き続き最大限努力し

てまいります。会員・連携会員の皆様にも、改めて上記の会長メッセージの内容をご確認いただき、提言等の作成の際に心掛けていただければと思います。

また、社会に対するセンサーを持つ、ということに関しては、「日本学術会議の今後の展望を考える有識者会議」⁵が3月20日にまとめた「日本学術会議の今後の展望について」（以下「有識者会議報告書」という。）においても提案されている、産業界やメディアとの意見交換の定期的な実施などにより、外部とのインターフェイスを増やし、社会に対するアンテナを高くしていきたいと考えています。

（3）活動方針について

【ご指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議に求められるのは、多様な分野や立場の研究者がいることにより学術全体を俯瞰することができるという利点を活かした、日本学術会議でしか出すことのできないメッセージを時期を逃さずに発信することである。今期の多くの報告書にみられるようなそれぞれの学問分野に特化した提言等は、各学会において行えばよいのであり、日本学術会議は、異なる分野を統合した俯瞰的な視点に立った提言等を出すことに活動の重点を置き、そうした活動を通じて、科学者コミュニティにおいて、リーダーシップを発揮するべきである。そのためには俯瞰的学問論が不可欠である。現在学術推進のための諸政策（ファンディング、研究組織、評価、研究不正防止など）に、学問領域の個性が考慮されていないことが問題化しており、第一部、第二部、第三部の学問領域の差異性を明らかにする検討を全会員によって行い、その結果を政策に反映する方策を提言することが緊急に求められているが、それを論じることなしに科学者コミュニティでのリーダーシップはありえない。また、提言としては、専門調査会、審議会、学界等、科学者に多くの機会が与えられている科学技術振興政策への提言でなく、他の組織では困難な、科学領域の統合が必要な一般の政策に対する科学者からの助言に重点を置くべきである。これは社会から信頼を得るための重要な条件である。

【ご指摘事項についての考え方】

日本学術会議にあらゆる分野の科学者を擁する組織である点を活かした提言等を発することが求められていることは、まさにご指摘いただいたとおりであり、有識者会議報告書においても、「日本学術会議に期待される役割」と

⁵ 「日本学術会議の在り方について」（平成15年2月総合科学技術会議）において「今回の改革後10年以内に、新たに体制を整備して日本学術会議の在り方について検討を行う」とされたことを踏まえ、平成26年7月より、内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の下で開催した有識者会議。約8か月間の議論を経て、平成27年3月20日、報告書「日本学術会議の今後の展望について」を取りまとめた。

して、「社会的な課題に対し我が国の学術の総合力を発揮した俯瞰的・学際的な見解を提示する『社会の知の源泉』としての役割」が挙げられています。

これまでも、平成17年改革において、社会的な課題について分野横断的なメンバーで審議することを想定して設けられた「臨時の委員会」の制度を活用し、課題別委員会、幹事会附置委員会という形で数多くの委員会等を組織し⁶、活発に審議を行ってきました。一例を挙げれば、科学研究における健全性の向上は、科学者コミュニティが自律的に取り組むべき、あらゆる分野に共通する課題であり、相次ぐ研究不正事案の発生等を踏まえ、第一部、第二部、第三部の全ての部の委員から成る委員会等を組織し、審議を進めてきました。その他にも、東日本大震災への対応、高レベル放射性廃棄物の処分に関する問題など、様々な課題に、現在も取り組んでいます。また、震災復興への学術の総合的対応を行うために、30の学協会の連絡会を組織するなど、分断されている学会間の連携にも貢献しています。

私としては、学協会と直に接触・交流し、学問分野ごとの動向を踏まえた助言・提言を行う分野別委員会の活動も、学術会議の活動を支える土台であり、大変重要であると考えていますが、日本学術会議に期待されている役割を踏まえ、分野横断的な議論の機会を増やし、社会から真に学術的知見が求められている課題に対して時宜を得た提言等を発信していけるよう、一層力を尽くしていきたいと考えています。

第23期は、活動を開始してまだ半年であり、今後、様々なテーマに関して委員会が立ち上がっていくと考えられます。会員、連携会員の皆様には、ぜひ日本学術会議の活動に積極的に参画いただき、日本学術会議の発展、ひいては日本の学術の発展に力を尽くしていただきたいと思います。

2015年4月22日
日本学術会議会長 大西隆

3 委員の辞任

○情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会

荒木啓二郎（平成27年3月9日付）

松本 健一（平成27年3月9日付）

○基礎医学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 医学分野の参照基準検討分科会

⁶ 第20期には43、第21期には50、第22期には70の委員会等を組織（いずれも、課題別委員会、幹事会附置委員会及びこれらの下に置かれた分科会の合計数）。

第 2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

（1）第一部会（第 2 回）（4 月 9 日、4 月 10 日）

○報告事項

- ①幹事会からの報告 ②第一部役員会からの報告
- ③分野別委員会からの報告、環境学委員会からの報告
- ④第一部附置「国際協力分科会」からの報告
- ⑤第一部附置「科学と社会のあり方を再構築する分科会」からの報告
- ⑥その他の委員会等からの報告

○協議事項

- ①活動の第 1 の柱「社会への発信」について
- ②活動の第 2 の柱「人文・社会科学の振興」について
- ③活動の第 3 の柱「科学者コミュニティとの結びつきの強化」について
- ④夏季部会について ⑤その他

（2）第二部会（第 2 回）（4 月 9 日、4 月 10 日）

- ①各機能別委員会、分野別委員会からの報告等について
- ②役員会の開催と拡大役員会の設置について
- ③夏季部会・シンポジウム（札幌開催）について
- ④若手/人材の育成について ⑤参照基準作成状況について
- ⑥第二部における提言等の査読委員について
- ⑦研究不正に対する取り組みについて
- ⑧第 5 期科学技術基本計画のあり方について
- ⑨幹事会直轄の委員会（附置委員会）の設置について
- ⑩学術の大型研究（マスタープラン）に向けての取り組みについて
- ⑪第二部直轄の分科会（附置委員会）の設置について
- ⑫A-MED における医薬/医療関連研究費について ⑬その他

（3）第三部会（第 2 回）（4 月 9 日、4 月 10 日）

- ①第三部会活動報告 ②各分野別委員会報告
- ③提言「第 5 期科学技術基本計画のあり方に関する提言」
- ④第 23 期における第三部の活動方針について
- ⑤東日本大震災への対応についての報告

- ⑥科学・夢ロードマップについて⑦大型研究計画マスタープランについて
- ⑧夏季部会について ⑨その他

(4) **第三部会拡大役員会** (第5回) (4月24日)

- ①第三部会での議論のフォローアップと今後の活動についての意見交換
- ②その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学者委員会** (第6回) (4月9日)

- ①協力学術研究団体の指定について
- ②協力学術研究団体に対する実態調査の実施について
- ③科学者委員会の今後の運営について

(2) **科学者委員会・科学と社会委員会合同 広報・科学力増進分科会** (第3回) (4月9日)

- ①「学術の動向」の編集・企画について
- ②平成27年度サイエンスカフェについて
- ③サイエンスアゴラについて ④その他

(3) **科学者委員会 男女共同参画分科会** (第2回) (4月10日)

- ①内閣府からの審議依頼に対する回答への対応について ②その他

(4) **国際委員会 アジア学術会議分科会** (第4回) (4月15日)

- ①第15回アジア学術会議への外国人の招へいについて (追加)

(5) **国際委員会** (第8回) (4月23日)

- ①第15回アジア学術会議への外国人の招へいについて (追加)

(6) **科学者委員会 男女共同参画分科会** (第3回) (4月24日)

- ①内閣府からの審議依頼に対する回答への対応について ②その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 史学委員会 (第2回) (4月9日)

- ①各分科会の活動報告 ②今後の方針 ③その他

(2) 哲学委員会 (第3回) (4月9日)

- ①本年度のシンポジウムの日程とテーマの決定
②第一部会の審議報告 (= 拡大委員会の審議の報告)
③各分科会の活動報告 ④その他

(3) 経営学委員会 (第3回) (4月9日)

- ①今後の経営学委員会の活動について ②学術フォーラムの報告 ③その他

(4) 言語・文学委員会 (第3回) (4月10日)

- ①平成27年7月25日(土)開催予定の公開シンポジウムの準備状況について
②今期の活動全般について ③その他

(5) 経済学委員会 (第2回) (4月10日)

- ①23期の活動方針について ②分科会の活動状況について ③その他

(6) 社会学委員会 (第2回) (4月10日)

- ①社会学委員会の活動について ②その他

(7) 心理学・教育学委員会 (第2回) (4月10日)

- ①各分科会の報告 ②大学院政策 ③その他

(8) 政治学委員会 (第3回) (4月10日)

- ①今後の共同研究の進め方について ②提言について ③その他

(9) 法学委員会 (第2回) (4月10日)

- ①法学分野における国際交流のあり方を検討する分科会の設置について
②その他

(10) 政治学委員会 ジェンダーと政治分科会 (第2回) (4月11日)

- ①議事録の確認 ②本年度の計画について ③公開シンポジウム計画について
④その他

(11) 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第2回) (4月11日)

- ①議事録の確認 ②本年度の計画について ③公開シンポジウム計画について
- ④その他

(12) 地域研究委員会 地域統合分科会 (第2回) (4月11日)

- ①議事録の確認 ②本年度の計画について ③その他

(13) 地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会 (第2回) (4月11日)

- ①議事録の確認 ②本年度の計画について ③その他

(14) 地域研究委員会 人類学分科会 (第2回) (4月11日)

- ①議事録の確認 ②人類学の参照基準について
- ③公開シンポジウム計画について ④その他

(15) 地域研究委員会 地域研究基盤整備分科会 (第2回) (4月11日)

- ①今期の活動計画 (シンポジウム等) について ②その他

(16) 地域研究委員会 (第3回) (4月11日)

- ①「第1部 拡大役員会 (第23期第2回)」概要報告 ②分科会報告

(17) 社会学委員会 情報と社会変容分科会 (第1回) (4月14日)

- ①23期分科会の体制について ②今後の活動計画について ③その他

(18) 心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会 (第1回) (4月21日)

- ①役員を選出 ②今後の活動方針について ③分科会委員の拡張について
- ④その他

(19) 社会学委員会 社会統計調査アーカイヴ分科会 (第2回) (4月23日)

- ①今期分科会の目標と方針について ②外部スピーカーの候補者について
- ③その他

第二部担当

(1) 基礎生物学委員会 (第2回)・統合生物学委員会 (第2回) 合同会議 (4月9日)

- ①各分科会の活動の状況報告
- ②今年度の基礎生物学委員会・統合生物学委員会としての活動について

③基礎生物学委員会と統合生物学委員会の合同の活動について ④その他

(2) **臨床医学委員会 感覚器分科会** (第1回) (4月9日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出
- ②平成27年度市民公開講座の開催について ③その他

(3) **基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 腫瘍分科会** (第1回) (4月9日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出
- ②腫瘍分科会における取り組みについて ③その他

(4) **農学委員会(第2回)・食料科学委員会(第2回) 合同会議** (4月10日)

- ①農学委員会委員の追加
- ②27年度夏期合同委員会および公開シンポジウム(8/7,8,9)について
- ③報告「大学教育の分野別質保障のための教育課程編成上の参照基準農学分野」(案)の提出について
- ④分科会活動報告 ⑤その他

(5) **健康・生活科学委員会** (第3回) (4月10日)

- ①新委員自己紹介 ②各分科会活動方針 ③今期の委員会活動について
- ④その他

(6) **農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 東日本大震災に係る食料問題分科会** (第2回) (4月10日)

- ①公開シンポジウムの開催について ②分科会の今後の進め方について
- ③その他

(7) **臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会** (第2回) (4月15日)

- ①活動方針に関する協議(有識者からの意見聴取を含む) ②その他

(8) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会** (第4回) (4月20日)

- ①都条例制定を求める緊急提言フォローアップ ②電子タバコの論点整理
- ③タバコ関連団体と研究者の関係(COI) ④その他

(9) **基礎生物学・統合生物学・基礎医学委員会合同 分子生物学分科会** (第1回) (4月23日)

- ①第23期分科会役員選出 ②第22期からの活動報告 ③第23期の活動方針
- ④その他

第三部担当

(1) 情報学委員会 (第3回) (4月9日)

- ①分科会状況確認 ②IT教育に関して
- ③提言に関して ④その他

(2) 電気電子工学委員会 (第3回) (4月9日)

- ①3部拡大幹事会報告(3月27日開催) ②アンケート結果についての検討
- ③分科会企画のシンポジウム等の開催時期について ④その他

(3) 土木工学・建築学委員会 大地震に対する大都市の防災・減災分科会 (第2回) (4月10日)

- ①中央防災会議「防災基本計画」に関する検討
- ②提言の構成に関する提案 ③その他

(4) 化学委員会 (第3回) (4月10日)

- ①分子研究所長招聘会議について ②大型計画マスタープランについて
- ③その他

(5) 電気電子工学委員会 URSI分科会 (第2回) (4月10日)

- ①第23期URSI分科会の立上げについて ②URSI分科会の活動について
- ③URSI本部への対応について

(6) 土木工学・建築学委員会 学際連携分科会 (第1回) (4月11日)

- ①委員長、副委員長、幹事の決定 ②活動方針の審議
- ③意見交換 ④その他(講演会、シンポジウム等の紹介) ⑤今後の予定

(7) 機械工学委員会 ロボット学分科会 (第2回) (4月14日)

- ①ロボットに関する状況分析 ②ロボットに関する課題抽出
- ③学術会議としてなすべきこと

(8) 数理科学委員会 統計学分野の参照基準検討分科会 (第3回) (4月17日)

- ①統計学分野の参照基準案の検討 ②公開シンポジウムのプログラムについて

(9) 材料工学委員会 材料工学将来展開分科会 (第1回) (4月20日)

- ①委員長、副委員長等の選出 ②委員の自己紹介
- ③本分科会の役割説明 ④本分科会の活動方針、計画について
- ⑤次回日程について ⑥その他

(10) 総合工学委員会 ICO分科会 (第4回) (4月21日)

- ①国際光年について ②その他

(11) 土木工学・建築学委員会 地球環境の変化に伴う風水害・土砂災害への対応分科会 (第2回) (4月22日)

- ①分科会委員の追加について
- ②佐賀低平地への適応策実装検討小委員会について
- ③「防災・減災に関する国際研究のための東京会議について」
- ④「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」及び「水災害分野における気候変動適応策のあり方について中間とりまとめ」について
- ⑤分科会の今後の進め方について ⑥その他

(12) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会 (第2回) (4月22日)

- ①提言改訂の方針 ②フロンティア分科会シンポジウムの開催について
- ③関連学協会へのシンポと提言改訂に関する協力依頼
- ④学術会議横断的なシンポジウムの開催について ⑤その他 (次回日程等)

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) オープンサイエンスの取組に関する検討委員会 (第1回) (4月13日)

- ①本委員会の設置の趣旨説明
- ②委員長の選出、副委員長・幹事の指名と承認
- ③「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」における審議の紹介
- ④世界科学データシステム (WDS : World Data System) の紹介
- ⑤今後の審議の進め方について ⑥その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 サイエンスカフェの開催

なし

8 総合科学技術会議報告

1. 本会議

4月10日 出席

2. 専門調査会

4月16日 出席 第6回基本計画専門調査会

4月16日 欠席 第5回重要課題専門調査会

4月23日 出席 第7回基本計画専門調査会

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

4月16日 出席

4月23日 出席

9 慶弔

・ご逝去

松田 藤四郎（まつだ とうしろう） 3月22日 享年83歳
元会員（第16～18期）、元東京農業大学学長、元東京情報大学学長